

成分名	大豆レシチン
英 名	Soybean Lecithin、S.B.Phosphatide
CAS No.	8030-76-0
収載公定書	薬添規 食添 外原規 NF
A TOXNET DATABASE への リンク	https://chem.nlm.nih.gov/chemidplus/rn/8030-76-0

投与経路	用途
経口投与	可溶(化)剤、結合剤、懸濁(化)剤、抗酸化剤、 乳化剤、賦形剤、分散剤、溶解補助剤、溶剤
その他の内用	
一般外用剤	
直腸膣尿道適用	
吸入剤	
経皮	

以下については該当文献なし.

1. 単回投与毒性
2. 反復投与毒性
3. 遺伝毒性
4. 癌原性
5. 生殖発生毒性
6. 局所刺激性
7. その他の毒性

8. ヒトにおける知見

① 大豆レシチンマイクロエマルジョン ゲルの皮膚刺激性を評価するために、単一ラメラ大豆レシチンリポソーム標品と溶媒である Isopropyl palmitate (IPP) との比較のもとにヒトを対象として in vivo の急性刺激性と累積刺激性試験を実施した。急性刺激は 151 名の 48 時間パッチテストにより、累積刺激は 20 名の 21 日間 repeated insult patch test により実施した。急性刺激はゲルが 2 名 (1.3 %), リポソームが 3 名 (2.0 %), IPP が 2 名 (1.3 %) で散在的な紅斑のみであった。累積刺激は、被験者の 50 % が刺激を起こす時間である IT50 は、ゲルが 13 日、リポソームが 14 日、IPP が 17 日で、ゲルはいずれも低い刺激性であった。¹⁾ (Dreher et al., 1996)

② 大豆レシチンにより生じた喘息の 2 名のパン屋の症例。この添加物による職業性暴露に関連した臨床症状を呈した。大豆レシチンでの皮膚試験は陽性。RAST は大豆に感作を示し、その 10-3 希釈液による気管惹起試験は陽性。²⁾ (Lavaud et al., 1994)

引用文献

- 1) Dreher F, Walde P, Luisi PL, Elsner P. Human skin irritation studies of a lecithin microemulsion gel and of lecithin liposomes. *Skin Pharmacol.* 1996; 9(2): 124-9.
- 2) Lavaud F, Perdu D, Prevost A, Vallerand H, Cossart C, Passemard F. Baker's asthma related to soybean lecithin exposure. *Allergy.* 1994 Mar; 49(3): 159-62.

REC JAPAN SAFETY DATA